

生活保護受給者

高齢世帯5割超

3月速報 家賃重く年金足りず

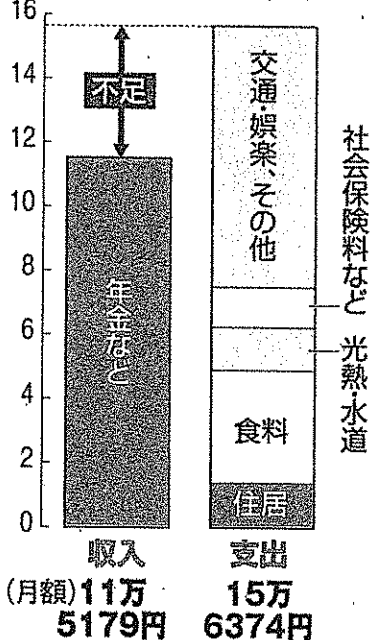
生活保護を受給する世帯に占める65歳以上の高齢者世帯の割合が初めて半数を超えた。厚生労働省が1日に3月分の速報値を公表。高齢者世帯が50・8%になった。公的年金だけではやり繰りできず、家賃の負担に耐えられなくなるケースが目立ち始めている。

給したのは162万6919世帯で、そのうち高齢者世帯が82万6656世帯だった。自立するのは単身者で、生活保護を受ける高齢者の90・5%を占めた。もらえる公的年金が少なく、持ち家がなければ生活苦に陥りやすい。埼玉県的女性(68)は2年前の春に夫を亡くし、その

直後に半年更新で30年以上続けてきたパートの事務職を「定年」で失った。毎月の収入は、自らの年金約5万円と夫の遺族年金約5万円で計10万円。老後の蓄えは夫の医療費で消えた。過去に夫が借金の保証人となって持ち家を失っており、市営住宅の家賃約4万円や社会保険料が年金暮

らしに重くのしかかった。想像もしていなかった生活保護を1年半前から受けている。「一生懸命働いてきて、自力で生活できなくなるなんて」生活保護を受ける高齢者世帯の持ち家率は急低下している。厚労省によると、2002年の約10・7%が12年には約3・9%に。持

60歳以上の単身世帯のくらし (万円) 2015年家計調査から



ち家の有無に関わらず60歳以上の単身世帯の平均収支は赤字(総務省の15年家計調査)で、家賃を払いきれず生活困窮に陥るケースが相次いでいるようだ。